

和 わ 和

第4号

発行・編集 奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森34-4
 奈良県心身障害者福祉センター内
 TEL 0744-33-3393 FAX 0744-33-1199
 ホームページ <http://narakyougikai.holy.jp/>
 メールアドレス narakyougikai@fm.holy.jp



みんなでいい汗流そう
 奈良県障害者スポーツ指導者協議会では、今年度の新しい事業として九月から毎月第三土曜日に県心身障害者福祉センター体育館で「スポーツデー」を始めます。
 家に閉じこもりがちになる障害のある人たちの外出のきっかけにさせていただき、と同時に障害者ス

第3土曜日を
 スポーツデーに！

スポーツ指導者の皆さんや家族、お友達、施設の職員、ボランティアの方々にも参加していただき、スポーツを通じて新しい仲間づくり、健康作りをしていただくのが目的です。今年度は来年三月まで（十二月を除く）別表の日程で開催します。

実施種目は毎月「スカイクロス」と「ふうせんバレー」の二種目と、月毎に「ボッチャ」「クロリティー」「ボックスホッケー」「ローンボール」「卓球バレー」「フリースロー」「室内ペタンク」「バウンズテニス」「フライングディスク」「フロッカー」等、多彩な種目の中から参加者の皆さんのご希望を聞きながら一種目を選び、合計三種目を実施する予定です。
 定員は、障害のある方二十人、付き添いの方も一緒に参加していただけます。

参加ご希望の方は協議会事務局に住所、氏名、年齢、障害の種類を記入のうえ、ハガキまたはF A



Xで申し込んで下さい。
 初めての試みです。ふるつてご参加下さい。一緒に楽しい汗をかきましょう！

スポーツデー日程

9月19日	10月24日
11月21日	1月16日
2月20日	3月20日

いずれも第3土曜日
 （10月は第4土曜）
 午前10時から12時まで

平成20年度

決算報告書

《収入の部》

(単位：円)

項目名	金額	摘要
登録費	161,000	700円×230名
繰越金	449,020	19年度より
補助金	100,000	NPOより地方研修補助金、近畿ブロック
受講料	68,000	初級指導員養成研修会
雑収入	9,374	競技規則集・帽子売上金、預金利息等
合計	787,394	

《支出の部》

(単位：円)

項目名	節・細節	金額	摘要
報償費	報償費	142,340	初級研修会講師謝金
旅費	旅費	86,760	初級研修会講師・全国代表会議
需用費	食糧費	12,738	初級研修会講師等昼食
	消耗品費	13,665	封筒・宛名シール
	印刷費	45,000	
役務費	通信費	110,704	総会案内等
	保険料	1,080	
	その他	4,070	振込手数料
使用料	使用料	3,150	HPサーバー使用料
負担金	負担金	10,000	障害者スポーツ協会賛助会費
備品購入費	備品購入費	-	
予備費	予備費	46,179	
合計		475,686	

差引残額 311,708円は平成21年度会計に繰越

平成21年度

予算書

《収入の部》

(単位：円)

項目名	金額	摘要
登録費	182,000	700円×260名
繰越金	311,708	20年度から
補助金	100,000	地域研修会補助金
受講料	80,000	初級研修会受講料 4,000円×20人
雑収入	6,292	預金利息等
合計	680,000	

《支出の部》

(単位：円)

項目名	節・細節	金額	摘要
報償費	報償費	130,000	研修会講師謝金
旅費	旅費	50,000	府県代表会議旅費
需用費	食糧費	5,000	会議費
	消耗品費	45,000	封筒・宛名シール
	印刷費	30,000	広報紙等
役務費	通信費	100,000	切手等
	保険料	5,000	傷害保険等
	その他	2,000	振込手数料等
使用料	使用料	5,000	会場使用料等
負担金	負担金	10,000	障害者スポーツ協会賛助会費
備品購入費	備品購入費	100,000	軽スポーツ用具等
予備費	予備費	198,000	
合計		680,000	

平成二十一年度総会から

平成二十年度
事業報告

平成二十年度について、例年とほぼ同様に、県障害者スポーツ大会

並びに全国大会派遣選手の強化練習へのサポートと年度前半に主な事業が集中した。

後半には、近畿レベルの研修会が実施され

平成二十年度
決算報告

資料に基づき事務局より報告があり、この

だが、中級指導員養成研修会には奈良県から二名、二月の特別研修会には七名と若干寂しい状況であった。

中で事前に配布された資料について初級指導員養成研修会に経費で源徴収分の金額が記載漏れがあった旨報告された。出席会員の了承を得られた。この結果次年度繰越金が三十一万七千八百八円となった。(前年比十四万円減)

平成二十一年度
事業計画

概ね例年通り、県障害者スポーツ大会等のサポートを中心とした事業計画であるが、指導員の研修・活用場の提供と在宅障害者の社会参加促進を目的として定例軽スポーツ教

室(一面に掲載)並びに出前教室を開催することとした。

平成二十一年度
予算書

二十年度からの繰越金が前年度に比べて十数万ほど少なかったため、その分縮小された

予算となった。初級研修会の補助金も不確定な要素があるため今後の財源確保が協議会としても当面の大きな課題となると思われる。

協議会トピックス

◎中島さんに 緑綬褒章



私たちの仲間、中島良子さんが今年春の褒章で永く社会奉仕活動に尽くされた功績がたたえられ、緑綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

中島さんがボランティア活動を始めたきっかけは、子どもさんが参加したボイスカウトのお手伝いから。昭和五十二年十二月、ボランティアグループ「みみなし」が結成されると班長に、平成四年からは代表に就任され、実に三十二年にわたって、老人ホーム訪問や一人暮らしの老人宅への食事サービスが続けています。

この活動で平成二年十一月に奈良県知事、同五年九月に厚生労働大臣から表彰を受けました。

また、障害者スポーツにも積極的に参加。昭和五十七年四月から二十一年間は奈良県手話通訳奉仕員として、平成十三年一月からは奈良県障害者スポーツ指導員として、各大会や全国大会派遣選手強化練習等に、元氣な姿を見せています。

活動はさらに広がり、平成十四年からは橿原市ボランティアセンター相談員に、同十七年七月からは小学校児童の見守りにも参加されています。

中島さんは、今年七十二歳、「いろいろな方に支えられたおかげです。少しでも社会のために役立つよう、これからも元氣な限り続けます」と、素晴らしい笑顔で話しておられました。

(橿原市在住)

◎ 出前教室

今年度も協議会は、出前教室を開き、「ご希望の日程、種目をお聞きして積極的に伺います。特別支援学校や施設の皆さんはどしどしお申込みください。」

児童、生徒や施設を利用されている方に直接指導する教室のほか、先生方、職員の方を対象にした指導者コースもあります。

種目は、フライングディスク、ボッチャ、グラウソンドゴルフ、フリーブロー

等を用意していますが、特にご希望の種目があればお申し出下さい。



写真は吉野学園での教室風景
2005.1

等をご用意していますが、特にご希望の種目があればお申し出下さい。できる限りご要望に添います。申込みは協議会事務局へハガキかFAXで。

☆ メールアドレスの登録を ☆

県協議会には今年度259人の会員がおられます。皆様へのご連絡や総会資料、広報紙等の発送は、ハガキや封書で行っておりますが2面に掲載しました平成20年度決算報告書のとおり、通信費は11万円を超え、協議会の財政を圧迫しています。

そこでパソコン、携帯電話をお持ちの皆様のメールアドレスを事務局に登録していただき、連絡はメールで、総会資料や広報紙等もPCメールに添付してお送りしたいと考えています。

これで節約できる通信費は、障害者スポーツの普及活動に活用します。

登録の方法は、下記の協議会のメールアドレスにメールを送っていただければOKです。その場合発信人名はフルネームをお願いします。皆様のご理解とご協力をお願いします。

また、登録していただきましたメールアドレスは連絡用のみ使用させていただきます他の用途に使用したり、本人の承諾なしに第三者に提供したりすることはありません。

E-mail:narakyougikai@fm.holy.jp

編集後記

機関紙「和わ和」第4号をお届けします。年間に二回発行するのは初めてです。今後は二回発行を常態に出来るよう努力します。皆様からのご寄稿をお待ちしています。4号の1面は協議会として初めて取り組む毎月第三土曜日の「スポーツデー」です。この日は、障害のある人たちだけでなく、皆様のご参加を期待しています。せっかく

取得されたスポーツ指導員の資格を生かして、一緒に汗をかきませんか。ニユースポーツ紹介は「ふっせんバレーボール」を取り上げました。障害のある人と一緒にプレーするスポーツとして創案されたものです。奈良県でもチームを作ろうと呼びかけをしています。これもぜひ一回、トライしてみてください。

(山田記)

スポーツ紹介

コート
(縦三・
四、横
六・一)

ふうせんバレー

一九八九年冬、北九州で「重い障害のある人も一緒にできるスポーツがあつたらいいな」そんな一人の障害者のつぶやきから、ふうせんバレーが生まれました。(ふうせんバレーボール振興委員会のホームページから)

そして今、障害のある人と健常者が同じ立場でプレーできる障害者スポーツとして、さらには子供も、高齢者も、誰もが参加できるニュースポーツとして発展。関西では五年前に結成された「大阪ふうせんバレーボール普及会」を中心に大阪、奈良、和歌山、京都へと輪が広がっています。具体的な競技の方法を紹介しましょう。

【競技の方法】 コート バトミントン



～ふうせんバレー研修会風景から～
車椅子の人も健常者のサポートで一緒に楽しめます。

を使います。ネットの高さは一・五五^{メートル}、アタックラインを二・五^{メートル}にひきます。
ボール 直径四〇^{センチ}に膨らませたふうせんに鈴を二個入れ、結び口の上からテープを張ります。
チーム コートに入る選手は、障害のある人

(ハンディプレイヤー・HP)三、四人と、障害のない人(アドバンテージャー・AP)二、三人の計六人で編成。六人のハンディレベル(別項参照)は合計十八点以内で構成します。
サーブ 二回制で一番はHP、続いてAP・HP・APと交互に行います。APはサーブスラインの後方から、HPは任意の場所(打ちこみので

きるHPはラインの後方)から行い、HPは任意のプレイヤーからトスのアシスト、サーブ後に一打のアシストを受けることができます。
ラリー ボールが自コートに入ったら、六人全員にボールを回す。全員がボールに一、二回触れ、六、十回以内に相手コートにボールを返す。全員が参加します。
【反則】
次が主なものです。
ダブルフォルト サーブを二回失敗。
ナットオール 全員がボールを打つ前に相手コートに返球。
オーバータイムス 十回以内に相手コートに返球できなかった 同一プレイヤーが三回ボールに触れた。
ドリブル 同一プレイヤーが連続して二回ボールに触れた。
ホールディング ボールを持ちたり、運ぶようなパスをした。
ジャンプアタック ジャンプしてサーブやアタックをした。

【試合】
大阪大会では十五分先取または十五分の時間制でラリーポイント制。終了時に同点の場合は延長し、一点先取した方を勝ちとします。
ふんわりと上がるふうせん。でも打ち方によってはすごいスピードでコートに突き刺さってきます。目ざれ始めています。
ルールは自分でほとんど動けないプレイヤーも一緒に競技できるよう工夫されています。これを生かして障害のある人もアタックに、レシーブに活躍できます。作戦をどう立てるか、皆さんも一度トライしてみませんか。

ハンディレベル

一チーム六人のハンディレベルは計十八点以内で編成する。
レベル1 自力でボールを追うことが困難で、当てるような打ちかたしかできない(ボールコントロール不能) 1点
レベル2 ボールを追うことと打つことに部分的介助が必要 2点
レベル3 ある程度自力移動が可能で、打つことも可能 3点
レベル4 プレーにほとんど支障がない(障害がある場合も「レベル4」と判定し、アドバンテージャーとして参加) 4点



ふうせんバレーボール振興委員会
ホームページから引用